

波照間島の植生概観と動物相

宮 城 邦 治

1. はじめに

波照間島は石垣島の南42kmに位置し、周囲14km、面積が1,490haの隆起珊瑚礁からなる平坦な島嶼である(図1、図2)。島の主産業は農業で、サトウキビが栽培されているが耕土は浅く、最近になって土地改良などの基盤整備がおこなわれている。波照間島は八重山群島の中でも他の島々に比べて交通が不便な事もあり、動・植物の調査研究はあまりおこなわれていない。植物については多和田(1954)、新納(1976)、緑地研究会(1977)および沖縄県(1978)の報告があるが、動物については昆虫を中心に断片的な報告がなされている(井上1975., 柏井、1975)だけである。

筆者は波照間島の自然環境として、植生と動物相について若干の調査をおこなった。調査期日は1980年6月26日~29日、1980年9月18日~21日、11月19日~23日および1981年8月5~8日までの延べ13日間である。短い調査期日では十分な調査ができず、資料収集にも偏りがみられるが、波照間島の自然環境の大まかな把握は可能だと思われるので、ここに報告する。

2. 調査方法

植生については主に海岸植生を中心に、Brawn-Branquetの方法を使って調査をおこなった。また、自然林がよく残存している御嶽は特定の日以外の立入りが禁止されているので、外から眺望できる範囲で植生の把握をおこなった。

動物相については、基本的には採集を中心に調査をおこなったが、目撃できた動物についてもできるかぎり記述した。今回の調査で対象にした動物は脊椎動物(両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類)と昆虫類・真正クモ類で、採集した動物は全て持ち帰り同定した。

3. 調査結果および考察

3-1 波照間島の植生概観

島の自然環境を把握するための第一歩は、まず植生を調査することである。波照間島は隆起珊瑚礁からなる平坦な島で、海浜や礁原にはそれぞれの環境に応じた独特の植生がみられる。今回の調査では海岸の礁原植生と御嶽やその周辺の植生を中心に、波照間島の植物的自然の把握に努めた。

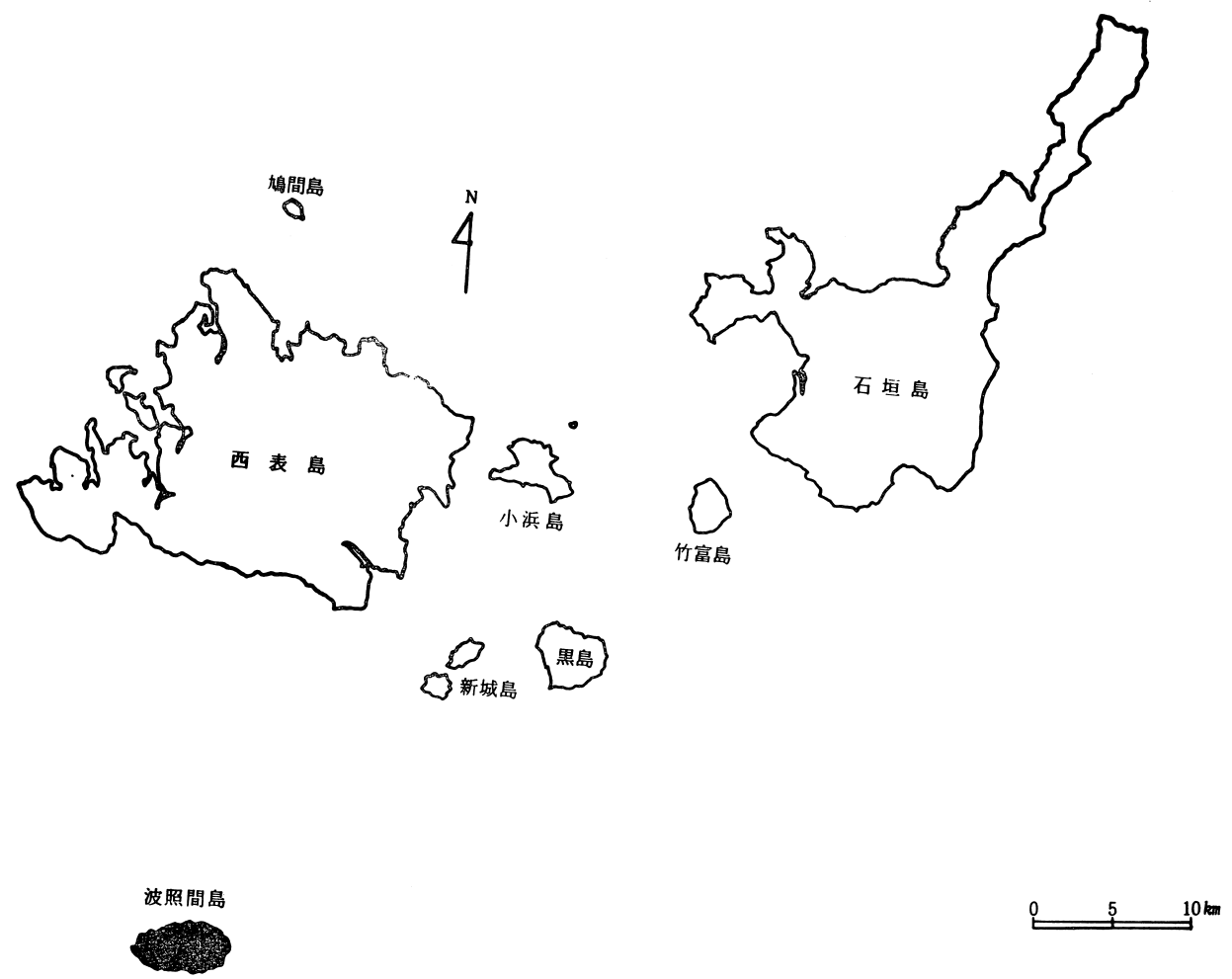


図1. 八重山群島・波照間島の位置

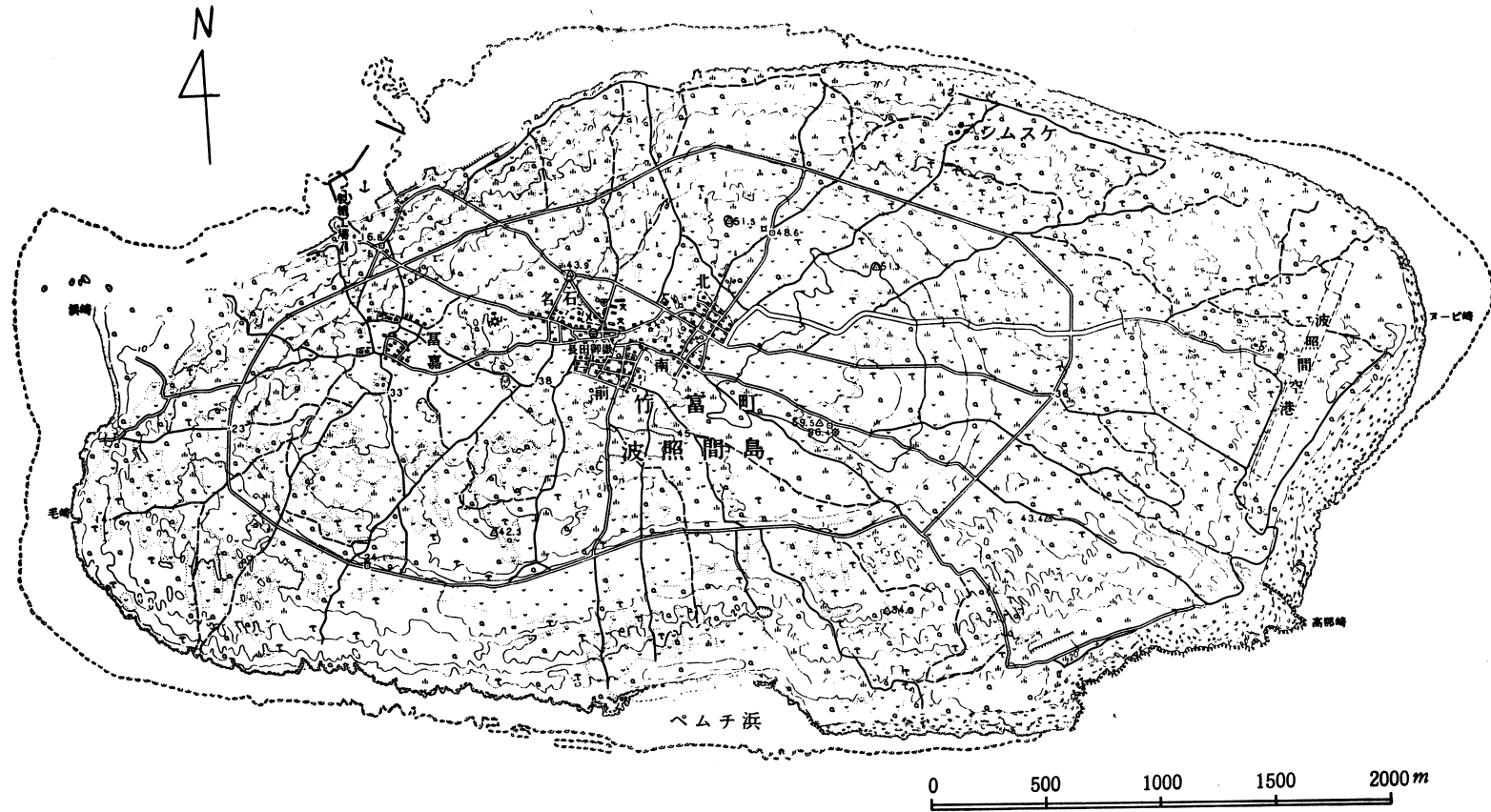


図2. 波照間島の地形図

(1) 海岸植生の概要

島の東側の高那崎、西側のハマシタン（ミズガンピ）の群落地、南側のペムチ浜、そして北側のシムスケの海岸で調査をおこなった。

高那崎は風光明媚な岩礁地形で、海崖の高さは数十mに及び、太平洋の荒々しい海風と波浪をまともに受けるところである (plate. 1)。

植物は飛沫帯の20~30m後方（内陸方向）からみられ、イソフサギ帯~イソマツ帯~モクビヤッコウ・コウライシバ帯~ミズガンピ帯~クサトベラ・モンパノキ帯~アダン帯へと続く帯状構造 (Zonation) がみられる (図3)。高那崎は強い波浪のため、礁原の凸地の植生は全体的に矮化が目立ち、とくにミズガンピは完全に匍匐型を呈している。ミズガンピは最も優先している種で、岩礁地全体に広がるような群落が発達している (plate. 2)。このようなミズガンピの群落は沖縄島や宮古島（東平安名崎）などではテンノウメ群落と置きかわっている。クサトベラやモンパノキは凹地に生育し、小灌木状を呈しているがアダン群落の近くではやや樹高を高くしているのがみられる。

高那崎ではその他に、ソナレムグラ、テツポウユリ、ナハエボシグサ、ハリツルマサキ、ハナカモノハン、イワダイゲキ、ゲンバイヒルガオなどがみられる (plate. 3)。また、アダン群落は内陸深く発達している。

高那崎の南側の「最南端の地」周辺は砂地になっており、ハマオモトやスナヅル、ハマウドの群落がみられる。波浪の影響が高那崎に比して少ないので、クサトベラやモンパノキなどは全体的に高く、半円状の樹型を呈している。また、クサトベラやモンパノキ、ハマウド、ハマオモトなどの後方にはアダン群落がよく発達している。

高那崎とは正反対の西崎の海岸では、沖合いにリーフがよく発達しているので、波浪や海風の影響は少なく海岸の汀線までオオハマボウ、テリハボク、タイワンウオクサギなどが迫っている。また、ミズガンピは匍匐型ではなく、完全に喬木化しすばらしい群落をつくっており、植物の生活形（樹型）と環境との関わりを一目で知ることができる。

南側のペムチ浜は約500m程の海浜で、汀線から植物帯までは約10mくらいである。海浜は強い傾斜で汀線に向っており、傾斜地ではクサトベラ、モンパノキ、アダン、ハマボッス、ハマオモト、イリオモテアザミなどがみられ、クサトベラ・モンパノキ群落をつくっている。傾斜地の頂上付近から内陸の平坦地にかけてハテルマギリ群落やテリハボクの群落がみられ、アオガンピ、アダン、タイワンウオクサギ、キダチハマグルマなどが出現する。

また、海浜近くの岩礁地ではイソフサギ帯~イソマツ・モクビヤッコウ帯~モクビヤッコウ・ミズガンピ帯~ミズガンピ帯~クサトベラ・アダン帯の Zonation が模式できる (図4)。ミズガンピ群落は発達がよく、岩礁の凸地を覆い (plate. 4)、凹地ではモクビヤッコウやイソマツがみられる (plate. 5)。やや内陸になると、クサトベラ、アダン、モンパノキなどがみられ砂地ではゲンバイヒルガオ、ナハエボシグサ、イリオモテアザミ、ハマオモト、ハマボッス、ホソバワダン、ハマゴウなどがみられる (plate. 6~8)。

北側のシムスケの海岸も典型的な岩礁地形で、イソマツ帯~ミズガンピ・モクビヤッコウ帯

～クサトベラ・コウライシバ帯～ハマゴウ・クサトベラ帯～アダン帯の Zonation がみられる。イソマツ帯の発達が悪く、むしろミズガンピ・モクビヤッコウ帯からの Zonation がわかり易い。海岸ではヤギの放牧がおこなわれており、クサトベラの食害が目立つ。また、アダンの群落を境に内陸部ではギンネム群落がみられる。

このように波照間島の海岸植生は基本的には Zonation がはっきりしており、とりわけミズガンピ群落やハテルマギリ群落 (plate.9) は波照間島の海岸植生の代表的な景観である。

(2) 御嶽林の概要

波照間島の人々は信仰心が厚く、とくに大きな御嶽 (白郎原、真徳利、阿幸俣御嶽) は人々の出入をきびしく禁止しているので、聖地である御嶽や拝所には自然林がよく残存している。これらの御嶽を外から眺望できる範囲で植生を把握した。

白郎原御嶽はリュウキュウガキ、クワノハエノキ、ツゲモドキ、タブノキ、コミノクロツグ、リュウキュウコクタン、アカテツなどがみられる。この御嶽ではクロボウモドキの群落がみられるが、これは初島 (1974) によって新種記載されたバンレイシ科の植物で、西表島と波照間島の一部から知られているだけである。

真徳利御嶽はクワノハエノキ、ガジュマル、リュウキュウガキ、フクギ、コミノクロツグ、シマヤマヒハツ、トウヅルモドキ、アカテツなどがみられる。

阿幸俣御嶽はツゲモドキ、ガジュマル、クワノハエノキ、ハマイヌビワ、シマヤマヒハツ、コミノクロツグ、リュウキュウガキ、アカテツ、リュウキュウコクタン、トゲカズラなどがみられる。

これらの三御嶽とも母岩である石灰岩の露出がかなりみられ、とくにコミノクロツグ、リュウキュウガキ、クワノハエノキなど石灰岩地帯の植物を中心にして波照間島の自然植生をつくり出している。また、小さな御嶽も数多くあり、ガジュマル、リュウキュウガキなど同様な植生景観がみられる。

このように波照間島の自然植生は御嶽を中心に残存しており、これらの御嶽林が基本的な植生景観をつくっているといえる。

(3) 部落周辺の植生

屋敷の周辺はフクギの屋敷林がみられ、赤瓦の屋根とともに南島独得の人文影観をつくっている。部落内にも小さな御嶽がいくつかあり、石灰岩を母体にした地形にはフクギ、リュウキュウコクタン、アカテツ、オオバアコウ、センダン、ガジュマル、ハスノハギリ、リュウキュウガキ、マルバチシャノキ、コミノクロツグなどがみられる。

畑地の畦道にはナンバンコマツナギ (インドアイ)、バンジロウ、ギンネムなどが多くみられる。ギンネム林は一周道路や農免道路の周辺に発達しており、そのような場所はヤギの放牧地になっている場合がある。

以上のように波照間島の植物的自然は、海岸の礁原地にはイソマツ、モクビヤッコウ、ミズ

ガンピ、モンパノキ、アダンなどの群落が発達し、砂丘地にはハテルマギリ、アダン、テリハボクの群落がみられる。とくに高那崎、西崎のミズガンピ群落やハテルマギリ群落は波照間島の海岸を特徴づける植生となっている。

内陸の石灰岩地は御嶽になっているところが多く、そのようなところではリュウキュウガキ、クワノハエノキ、コミノクロツグ、リュウキュウコクタンなどがみられ、波照間島の土地的極相林とおぼしき森林植生を形成している。

部落周辺も同様に石灰岩地の植生がみられるが、人為的影響をつよく受けたような地域ではギンネム林が発達している。また、屋敷林はほとんどフクギが利用されていた。

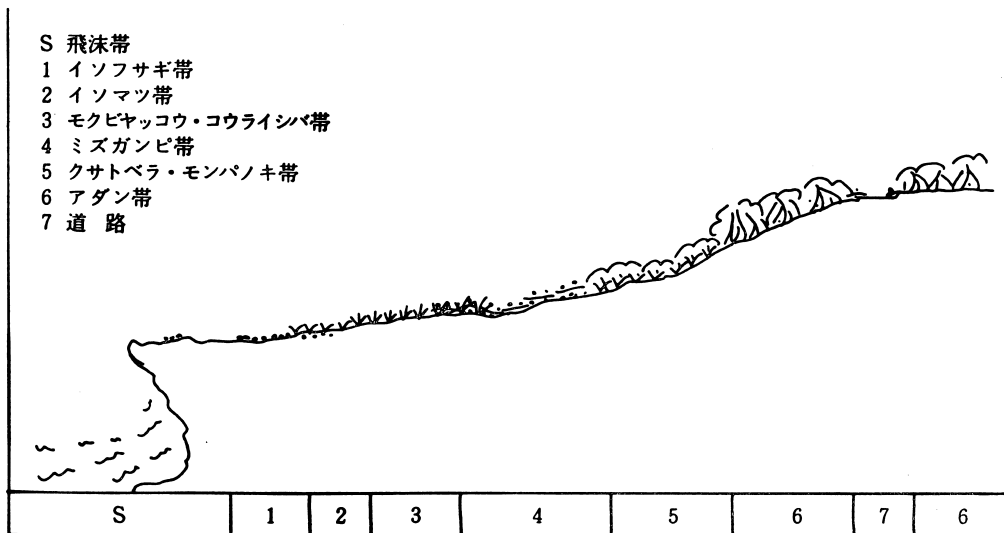


図 3. 高那崎の海岸植生の Zonation

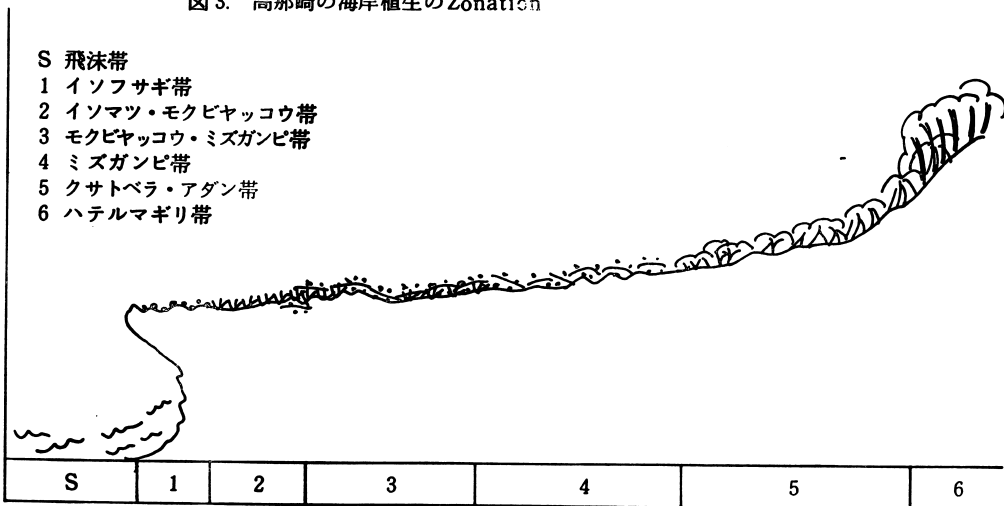


図 4. ベムチ浜の海岸植生の Zonation



Plate 1. 高那崎遠景

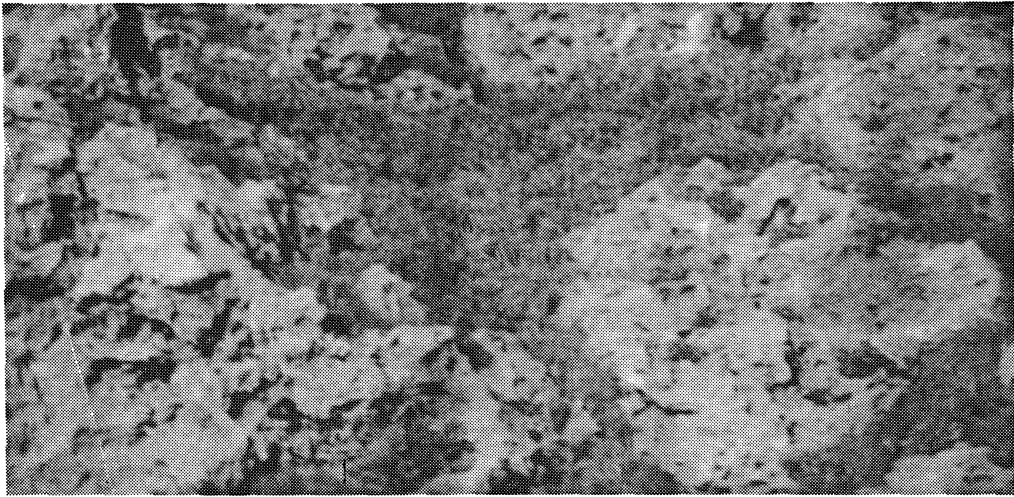


Plate 2. シズガンビ群落



Plate 3. イワダイゲキ群落



Plate 4. シズガンビ群落

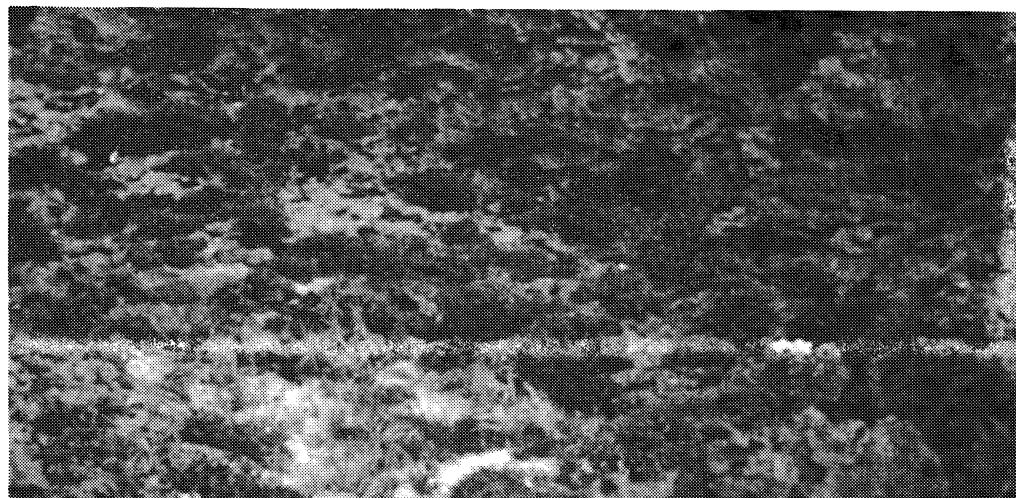


Plate 5. イソマツ群落



Plate 6. グンバイヒルガオ群落



Plate 7. ハマオモト



Plate 8. ハマボッス



Plate 9. ハテルマギリ群落

3-2 波照間島の動物相

調査期間中に波照間島で目撃・採集され、生息が確認された動物は以下の通りである。なお脊椎動物については、今回の調査では採集できなかったが生息が確実と思われる種についても、一応リストに加えた(※印)。学名の取扱いは、脊椎動物は主として今泉(1960)、千石編(1979)、小林(1972)に、昆虫類は高良・東(1973)、真正クモ類は八木沼(1978)にそれぞれ準じた。なお、種名の後に付した記号は採集日を示しており、それぞれH6(1980年6月26日~29日)、H9(1980年9月18日~21日)、H11(1980年11月19~23日)およびH8(1981年8月5~8日)で表わしてある。

真正クモ類 ARANEAE

ウズグモ科

ウズグモ *Uloborus varians* H9

ヒメグモ科

シロカネイソウロウグモ *Conopistha bonadea* H9

コガネグモ科

ヤミイロオニグモ *Araneus fuscocoloratus* H9

ヘリジロオニグモ *A. subpullatus* H9, H11

ナガマルコガネグモ *Argiope aemula* H9

ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* H9

ヤマゴミグモ *C. monticola* H9

チブサトゲグモ *Gasteracantha mammosa* H9, H8

ハラビロスズミグモ *Cyrtophora unicolor* H8

ジョロウグモ *Nephila clavata* H11

オオジョロウグモ *N. maculata* H9

アシナガグモ科

チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* H11

オオシロカネグモ *L. magnifica* H11

キシダグモ科

ハシリグモの一種 *Dolomedes sp.* H11

コモリグモ科

キクズキコモリグモ *Lycosa pseudoannulata* H11

ウズキコモリグモ *Pardosa T-insignita* H11

ササグモ科

ササグモ *Oxyopes sertatus* H9

カニグモ科

ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* H9

ハエトリグモ科

アダンソンハエトリグモ *Hasarius adansoni* H9

チャスジハエトリグモ *Plexippus paykulli* H11

カラスハエトリグモ *Rhene atrata* H9

アシダカグモ科

コアシダカグモ *Heteropoda forcipata* H9

これらの真正クモ類は御嶽、農道傍、部落内で採集された。採集された種は10科22種で、全て沖縄島および八重山諸島との共通種であった（千木良・宮城、1981）。波照間島の真正クモ類相は単純であるが、詳しく調査すれば種類数はもっと増えると思われる。因に、八重山諸島の真正クモ類については下謝名（1967、1970）、大利・樋山（1976）が西表島から80種、石垣島から68種、与那国島から62種を報告している。

昆虫類 INSECTA

蜻蛉目 Odonata

ヤンマ科

リュウキュウカトリヤンマ *Gynacantha ryukyuensis* H6

リュウキュウギンヤンマ *Anax panybeus* H6

トンボ科

ハラボソトンボ *Orthetrum sabina sabina* H6

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* H6

ヒメトンボ *Diplacodes triviaris* H6

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* H9

直翅目 Orthoptera

ツユムシ科

ダイトウクダマキモドキ *Phaulula daitoensis* H6

バッタ科

クルマバッタ *Gastrimagus macmoratus* H6

ハネナガイナゴ *Oxya velox* H6

モリバッタの一種 *Traulia ornata s.sp* H8

ナナフシ目 Phasmida

コノハムシ科

コブナナフシ *Datamea mouhoti* H8

半翅目 Hemiptera

カメムシ科

ミヤコキンカメムシ *Brachyaulax miyakonus* H8

同翅目 Homoptera

セミ科

リュウキュウクマゼミ *Cryptotympana facialis okinawana* H8

鱗翅目 Lepidoptera

セセリチョウ科

オキナワビロウドセセリ *Hasora chromus imermis* H6

ネッタイアカセセリ *Telicata colon stinga* H6,

チャバネセセリ *Pelopides mathias oberthuri* H6

アゲハチョウ科

アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* H6

シロオビアゲハ *Papilio polytes polytes* H6, H9, H8

ベニモンアゲハ *Pachliopta aristolochiae interpositus* H6

シロチョウ科

ナミエシロチョウ *Appias paulin minato* H6, H9, H11, H8

ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe conspergata* H6, H9, H8

キチョウ *Eurema hecabe mandarina* H6, H9, H8

シジミチョウ科

ウラナミシジミ *Lanpides boeticus* H6, H9, H8

ハマヤマトシジミ *Zizeeria knysna karasandra* H6, H9, H8

ヤマトシジミ *Z. maha okinawana* H9, H8

マダラチョウ科

アサギマダラ *Parantica nipponica* H9, H8

リュウキュウアサギマダラ *Radena similis* H9, H8

カバマダラ *Panlymnas chrysiippus* H9, H8

スジグロカバマダラ *Salatura genutia* H6, H9, H8

オオゴマダラ *Idea leuconoe liukiensis* H6, H9, H11, H8

タテハチョウ科

リュウキュウミスジ *Neptis hylas luculenta* H6, H9, H11, H8

タテハモドキ *Precis almana* H6, H8

アオタテハモドキ *P. orithya* H8

アカタテハ *Vanessa indica* H6, H9, H8

- メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus* H6, H9
リュウキュウムラサキ *H. bolina* H6, H9
イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* H6, H9, H8

双翅目 Diptera

- ミズアブ科
アメリカミズアブ *Hermetia illucens* H6
ムシヒキアブ科
アオメアブ *Cophinopoda chinensis* H6
ツリアブ科
クロハネツリアブ *Hyperalonia tantalus* H6
ハナアブ科
キゴシハナアブ *Lathyropathalmus quinquestriatus* H6
ミナミキゴシハナアブ *L. arvorum* H6

甲虫目 Coleoptera

- アツバコガネムシ科
フチトリアツバコガネ *Phaeochrous asiaticus* H8
コガネムシ科
アオドウガネ *Anamala albopilosa sakishimana* H8
イシガキシロテンハナムグリ *Protaetia ishigakia* H8
タマムシ科
アオムネスジタマムシ *Chrysochroa jucunda* H9, H8
テントウムシ科
オオテントウ *Synonycha grandis* H6, H9
ゴミムシダマシ科
オオニジゴミムシダマシ *Hemicera pulchra* H9
ハナノミ科
シラホシハナノミの一種 *Hoshihananomia sp.* H6, H9
カミキリムシ科
ヨツスジトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus* H8
イシガキゴマフカミキリ *Mesosa cervinopicta* H9, H8
ハムシ科
ヨツテンジンガサハムシ *Lacciptera quadrimaculata* H8

膜翅目 Hymenoptera

ヒメバチ科

キバラヒメバチ *Ichneumon disparis* H6

セイボウ科

セイボウの一種 (サカグチムツバセイボウ?) *Chrysis sp* H6

ツチバチ科

ヤエヤマクロツチバチ *Scolia yaeyamaensis* H6

ヒメハラナガツチバチ *Campsomeris annulata* H6

スズメバチ科

ツマグロスズメバチ *Vespa affinis* H6

ヤエヤマアシナガバチ *Polistes jokohamae* H6, H9, H8

トックリバチ *Eumenes micado*

クロスジスズバチ *E. camponi formis* H6

フトオビドロバチ *Rhynchium mandarinum* H6

ベッコウバチ科

ルリベッコウバチの一種 *Pompilus sp.* H6, H9, H8

ジガバチ科

キンモウアナバチ *Sphex flammi fricus* H6, H9, H8

キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum* H6, H8

ミツバチ科

タカオルリモンハナバチ *Thyreus takaonis* H6

アオスジコシブトハナバチ *Anthophora senahai* H6, H8

アカアシセジロクマバチ *Xylocopa albinotus* H9

ミツバチ *Apis indica japonica* H8

昆虫類は蜻蛉目 2科 6種、直翅目 2科 4種、ナナフシ目 1科 1種、半翅目 1科 1種、同翅目 1科 1種、鱗翅目 6科 25種、双翅目 4科 5種、甲虫目 8科 10種および膜翅目 7科 16種が採集された。波照間島の昆虫相は、ごく一部の種を除けばすべて石垣島、西表島との共通種である。

波照間島の昆虫相で特筆すべき種にツマグロゼミ *Nipponosemia terminalis* がいるが、今回の調査では採集できなかった。本種は波照間島以外では宮古島と西表島の一部から知られている。なお、御嶽や畑地などを中心に調査・採集をおこなえば、波照間島の昆虫相のリストはかなりふえると思われる。

両生類 AMPHIBIA

アカガエル科

ヌマガエル *Rana limnocharis*

ヒメアマガエル科

ヒメアマガエル *Microhyla ornata*

両生類は2科2種の生息が確認された。ヌマガエルは部落内の下水溝、水溜り、御嶽の林内で目撃・採集された。波照間島産のヌマガエルは、頭部から尾部にかけての背面正中部に、白線のみられる個体とみられない個体がいる。宮古諸島のヌマガエルも同様に白線がみられる(当山、1976)が、沖縄諸島や与那国産の本種では白線を欠いている。

ヒメアマガエルは前部落の長田御嶽で採集されたが、ヌマガエルよりも個体数は少なかった。畑地の水溜りや下水溝などでは本種の幼体(オタマジャクシ)が多くみられた。

爬虫類 REPTILIA

ヤモリ科

ホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* H6, H9, H11, H8

ニホンヤモリ *Gekko japonicus* H6, H9

トカゲ科

サキシマスベトカゲ *Scincella boettgeri* H8

イシガキトカゲ *Eumeces stimpsoni* H8

※キシノウエトカゲ *E. kishinouyei* H6 (目撃)

ナミヘビ科

※サキシマアオヘビ *Opheodrys herminae*

ヤエヤマヒバァ *Amphiesma pryeri ishigakiensis* H11

爬虫類は3科7種の生息が確認された。ホオグロヤモリは部落内の家屋の壁、電柱の燈下で多数採集された。ニホンヤモリは部落の周辺部のフクギやテリハボク、納屋などで採集されたが、ホオグロヤモリに比べその個体数は少なかった。

イシガキトカゲは前部落内の石垣や道路、名石部落の公民館近くの御嶽で目撃され、2頭を採集した。従来、本種は石垣島・西表島以外からの採集例はなく、今回の採集により本種が波照間島にも生息する事が確認された。

サキシマスベトカゲは前部落の長田御嶽で1頭採集された。キシノウエトカゲは前部落内の畑地で1頭だけ目撃したが、島の人々は本種の存在をよく知っており、冬季には畑地や海岸近くの土中で冬眠するとの事である。本種は宮古島、伊良部島、来間島、石垣島、西表島などにも産し、国指定の天然記念物になっている。

鳥類 AVES

カラス科

オサハシブトガラス *Corvus leuillantii osaii*

- ハタオリドリ科
スズメ *Passer montanus saturatus*
セキレイ科
ハクセキレイ *Motacilla alba lugens*
キセキレイ *M. cinerea caspica*
メジロ科
イリオモテメジロ *Zosterops palpebrosa iriomotensis*
ヒヨドリ科
イシガキヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis stejnegeri*
ヤエヤマシロガシラ *Pycnonotus sinensis orii*
ウグイス科
セッカ *Cisticola juncidis brunniceps*
ツグミ科
イソヒヨドリ *Monticola solitarius magnus*
フクロウ科
リュウキュウコノハズク *Otus scops elegans*
ハト科
リュウキュウキジバト *Streptopelia orientalis stimpsoni*
チュウダイズアカアオバト *Sphenurus formosae medioximus*

鳥類はオサハシブトガラスが最も多く、部落内、畑地、海岸など島内のいたるところで目撃できた。またヤエヤマシロガシラも部落内で多くみられた。その他、イシガキヒヨドリ、ハクセキレイ、イリオモテメジロなど9科12種（亜種）がみられたが、詳しくは調査をすれば種類数はもう少しふえると思われる。

哺乳類 MAMMALIA

- オオコウモリ科
ヤエヤマオオコウモリ *Pteropus dasymallus yayeyamae* H6, H9, H8 (目撃)
トガリネズミ科
リュウキュウジャコウネズミ *Suncus murinus riukiuanus* H8
ネズミ科
クマネズミ *Rattus rattus* H11
※ヨナクニハツカネズミ *Mus molossinus yonakuni*
イタチ科
ニホンイタチ *Mustela sibirica itatsi* H6, H9, H8 (目撃)

哺乳類は4科4種(亜種)が目撃・採集された。ヤエヤマオオコウモリは部落内にあるフクギの果実を求めて、夜間に複数の個体が飛来してきた。また6月には南部落近くの林内のオオバアコウとガジュマルで休息している個体がみられた。波照間島のオオコウモリは約24km離れた西表島から飛来してくる(下謝名、1976)と思われるが、島内には白郎原御嶽、真徳利御嶽、阿幸俣御嶽などを中心に、オオバアコウ、クワノハエノキ、ガジュマル、リュウキュウガキなどの自然林がよく残存しているので、周年生息している可能性もある。いくつかの御嶽には鐘乳洞があり、洞内には小型のコウモリ類が生息しているとの情報が得られたが、今回は確認できなかった。おそらくはヤエヤマユビナガコウモリだと思われるが、他にヤエヤマコキクガシラコウモリ、イシガキカグラコウモリなどの可能性もある。今後の調査を待ちたい。

リュウキュウジャコウネズミは南部落の御嶽の林内(オオバアコウ、ガジュマル、クワズイモ、リュウキュウガキなどが優先する)で一頭だけ採集できた。

クマネズミは燈台近くの豚舎跡で採集された。波照間島では1965年～66年頃にはクマネズミによるサトウキビへの加害が著しかったようであるが、今日では定期的な殺鼠剤の使用や「天敵」動物として導入されたニホンイタチの定着の影響を受けているとみえて、採集されたのはわずか1頭であった。ネズミ類は他に、ヨナクニハツカネズミが生息している(高良、1975)ようだが、今回は採集・確認できなかった。

波照間島のイタチは土着の動物ではなく、ネズミ駆除の目的で、1966年から68年にかけて雄299頭、雌49頭を、当時の琉球政府が鹿児島県から導入したものである(伊波、1966., 内田、1968)。今日ではすっかり島内に定着しており、農道や部落内でイタチを目撃することができる。また、農道ではイタチの糞が多くみられた。イタチの防鼠効果については、その評価が分れる(平岩・内田、1960., 田中、1967., 御厨、1969., 内田、1969)が、島の人々はイタチによるネズミ駆除の効果については、これを認めているようである。いずれにしても人為的な動物の移入は、その土地の生物群集に何らかの影響を与えるのは必至であり、慎重な対応が求められる。

波照間島の自然環境としての動物相は、真正クモ類、昆虫類、脊椎動物などいずれも石垣島や西表島などに比べて単純で、種類数も少ない。しかし、御嶽などを中心に自然林がよく残存しているので、今後もっといいねいに調査をしていけば種類数は増えると思われる。特に、真正クモ類や昆虫類は小型な動物なので目撃・採集されることが少なく、また季節的な影響もあるので相当数のリスト漏れがあると思われる。

脊椎動物では採集された種に加え、キノボリトカゲ、タシロヤモリ、サキシマアオカナヘビ、ヤエヤマアオガエルなどが、また洞穴性の小型コウモリ類(ヤエヤマユビナガコウモリ、ヤエヤマコキクガシラコウモリ、イシガキカグラコウモリなど)が生息している可能性がある。

波照間島の動物相の概要は以下の通りである。

- (1) 今回の調査で波照間島の真正クモ類、昆虫類および脊椎動物のファウナの一部が明らかになった。脊椎動物では両生類が2科2種、爬虫類3科5種、鳥類9科12種および哺乳類が4

科4種それぞれ目撃・採集された。

- (2) 真正クモ類は全て、沖縄島や八重山諸島と共通種であった。
- (3) 昆虫類はほとんどが石垣島・西表島との共通種であり、昆虫相は全体的に貧弱であった。
- (4) ヌマガエルは背面正中線に白線のある個体があった。
- (5) イシガキトカゲが採集され、波照間島での本種の生息が確認された。
- (6) キシノウエトカゲが生息するが、サキシマハブは分布しない。
- (7) ネズミ駆除の目的で導入されたニホンイタチは完全に定着し、島内のいたるところで目撃できた。

参 考 文 献

- 千木良芳範・宮城邦治. 1981. 波照間島および与那国島の真正クモ類. *HEPTATHELA*, 2(1):12—15.
- 平岩馨邦・内田照章. 1960. 天敵イタチ導入による鼠禍鎮圧. *森林防疫ニュース*, 9(1):11—13.
- Hatsushima, S. 1974. *New or noteworthy plants from the Ryukyus*. 「琉球列島の自然とその保護に関する基礎的研究」(池原貞雄編), 1:37—45.
- 今泉吉典. 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 196pp. 保育社、大阪.
- 伊波興清. 1966. 野鼠の天敵としてのイタチの導入記録. *沖縄農業*, 5(2):45—53.
- 井上 潔. 1975. 波照間島における蝶の記録若干. *月刊むし*, 52:19.
- 小林桂助. 1972. 原色日本鳥類図鑑、増補改訂版. 241pp. 保育社、大阪.
- 柏木伸夫. 1975. 南十字星のみえる島、波照間へ. *月刊むし*, 56:10—13.
- 御厨正治. 1969. *いたち*. 70pp. 農林省宇都宮営林局宇都宮営林暑.
- 新納義馬. 1976. 沖縄の植物自然. 「沖縄県のすぐれた自然」、1—56. 沖縄県環境保健部.
- 大利昌久・樋山御理男. 1976. 先島諸島(八重山群島・宮古群島)の真正蜘蛛類相とその生息域. *Atypus*, 66:15—23.
- 沖縄県. 1978. 特定植物群落調査報告. 236pp.
- 緑地研究会. 1977. 社寺林の研究・8(沖縄県先島). *森林*, 8:125—171.
- 下謝名松栄. 1967. 琉球列島のクモ相について. *沖生会誌*, 4:16—25.
- . 1970. 動物の地理分布をどう指導したらよいか. *沖生教研会誌*, 4:38—68.
- . 1976. 島の自然と鐘乳洞. 188pp. 新星図書、那覇.
- 千石正一編. 1979. 原色両生・爬虫類. 206pp. 家の光協会、東京.
- 多和田真淳. 1954. 八重山群島波照間島の植物. *琉球林試報告書*, 2:61—76.
- 田中 亮. 1967. *ネズミの生態*. 196pp. 古今書院、東京.
- 高良鉄夫・東清二. 1973. 沖縄の昆虫. 「沖縄の昆虫」(栗林慧), 151—181. 学研、東京.

- 高良鉄夫. 1977. 沖縄動物研究史. 「沖縄動植物研究史」(高良鉄夫・天野鉄夫)、1—60.
「沖縄動植研究会史」刊行会、那覇.
- 当山昌直. 1976. 宮古群島の両生爬虫類相 (I). 爬虫両棲類学雑誌、6(3):64—74.
- Uchida, T.A. 1968. Observation on the efficiency of the Japanese weasel, *Mustela sibirica itatsi* Temminck & Schlegel, as a Rat-control agent in the Ryukyus. Bull. Wld Hlth Org, 39:980—986.
- . 1969. Rat-control procedures on the Pacific islands, with special reference to the efficiency of biological agents II. *J.Fac.Agr., Kyushu Univ*, 15(4):355—385
- 八木沼健夫. 1978. 原色日本蜘蛛類大図鑑、増補改訂版. 206pp. 保育社、大阪.